

【議会報告会】

○市が指定管理者制度を導入する際の説明には、必ず「より質の高いサービス」という文言があるが、市と指定管理者の運営では、具体的にどのような違いがあるのか。桜運動施設について、指定管理者制度を導入した理由を確認したい。

⇒議員 桜運動施設については、市内の他の運動施設を現在運営している団体による特定の指定管理になる。すでに運動施設の運営面での経験と実績があることと、複数の運動施設の予約等の窓口が一元化されることによる利便の向上がメリットとして考えられる。

⇒議員 今回、市の直営から指定管理制度を導入することの是非については、サービス面の向上はもとより、経費削減の視点からも、議会内で十分な議論を行った。担当部局からは、他の運動施設との一体的な運営により、従業員の管理や運動器具の共用による施設整備の面でも効果があるとの説明があり、最終的に議会として了承した。

【シティ・ミーティング】

○70歳以上の高齢者の中には、身体が思うように動かない人も多く、洋式便器に座らないと小用を足すことができない男性もいる。担当部局に実情を伝えるとともに、障害者認定を受けることができない高齢者に対する配慮もお願いしたい。

⇒議員 ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。

○昨年度から特別教室にエアコンを順次設置していると聞くが、子供が一番長い時間を過ごすのは普通教室であるため、普通教室への早期の設置を強く要望したい。

⇒議員 エアコンの設置方式や費用対効果を含めたコストの検討を早急に終えて、早期に普通教室への設置を進めるよう、議会としても求めていきたいと考える。

○小学1年生について、本市が下限人数を設けずに30人以下学級を進めるのはありがたいが、小学2年生は、まだまだ落ち着かない学年であり、教師も大変苦勞していると聞くため、30人以下学級を少なくとも小学2年生まで広げるよう要望したい。

⇒議員 学校教育法の改正により、来年度から小中一貫教育を行う義務教育学校が制度化

される中で、地域の実情に応じて、どのような枠組みで今後進めていくのか、最適な学級単位等の具体的な検討が必要である。

⇒議員 学力向上について数値による効果検証は難しいが、おおむね少人数学級の方がきめ細かな教育ができると考えられる反面、ある一定の人数がいることの効果もあるため、今後も十分な議論を行いたい。

⇒議員 少人数学級の具体的な効果検証の方法がなく、議会内でも賛否両論ある中、少人数学級の効果の有無について、なかなか議論が進んでいないのが現状である。

○本来、責任を持つべき国が小学1・2年生のみ35人以下学級としていることから、国に対し、小中学校の全学年で35人以下学級となるよう意見を出してほしい。山形県が行う全学年33人以下の少人数学級編制では、いじめが減少し、落ち着いた学習ができるとの意見があるなど効果があると聞く。

⇒議員 少人数学級を実施するためにかかる費用や効果をもう少し検証した後に、議会内で十分に議論し、必要と判断すれば意見書を提出することもある。

○少人数学級について、どのような経緯を経て事業を評価したかを説明することが重要であるにもかかわらず、議論をするだけで、具体的な事業効果が示されない中で議会が認めていったのはなぜか。少人数学級を進める県の全国学力・学習状況調査結果が残念な点数であったことから考えても、多人数学級の方が競争力が上がるのではないか。

⇒議員 学力の向上については、クラスの雰囲気や、教師の技量によるところが大きく、学級人数によってあまり影響されないと考える。また、全国学力・学習状況調査の平均点が上位の県は、テストに向けた勉強を行うなどの手法によるところが大きいとされており、本市として点数を上げるためだけに対策を立てることには個人的に違和感がある。

⇒議員 どの程度の学級の人数が子供にとって最適であるかを検証することは難しく、議会としても検証していない。不登校やいじめなどの問題が数多く起こった場合には、教師がきめ細かな対応をする上で少人数学級の方がいいと考えられている。教師が授業以外での児童・生徒への関わりを増やすことを目的に、少人数学級が推進されてきた経緯があると考ええる。

⇒議員 現市長が選挙時に掲げた公約を受けて、本市独自の少人数学級が実施されてき

た経緯があり、議会として積極的に推進してきた施策ではない。市単独予算で教師を増やすことについては、市民の間でも賛否が分かれており、議会としての結論も出ていないため、本日いただいた意見を今後の判断材料としていく。

⇒議員 教師のきめ細かな指導が可能であることから、自分自身の経験も踏まえ、小中学校の全学年で30人以下学級がいいと考える。多くの予算が必要となる割に、教育効果がすぐには現れないため、予算が付きにくい側面はあるが、少子化が進む中で、人を大切に育てる意味においても予算の増額が必要であると考えます。

⇒議員 県の全国学力・学習状況調査の平均点が低いからといって、例えば、県の大学進学率は低くなく、他県に比べて学力が大きく劣っている訳ではないと考える。

⇒議員 ある程度適正な規模の中で競争することが成長期の子供にとっては重要であり、1学級当たりの適正な規模は35人から40人程度であると考えます。学級の人数を減らすのではなく、警察・教員のOBを活用して、担任が本来すべき業務以外の部分をいかに軽減させ、教師が子供と向き合える時間を増やすことができるかが大事である。

⇒議員 学力の定義は幅広く、相対評価である全国学力・学習状況調査の平均点だけで単純に効果を判断できるものではない。家庭、地域、学校とのつながりが学力に影響するとの意見もあり、現在の傾向として、学力の二極化が進んでいる。学力向上に向けて、何より優先すべきは、教師の教育力の向上のために必要な投資をすることであると考えます。

○全国学力・学習状況調査の平均点と、子供の学力とは全く関係性がなく、子供にとって一番大事なことは、自己肯定感を高めることである。自己否定によって学力が二極化している現状から考えて、全国学力・学習状況調査結果の学校別の順位を公表する動きがあった場合は、学習環境を悪化させないためにも、議会として止めてほしい。

⇒議員 全国学力・学習状況調査の結果が全てではなく、学校間で競争をする必要もないと考えるが、結果については公表してもよいと考える。

⇒議員 少人数学級になったからといって、教師が学習や発達に課題のある子供をフォローできるわけではないと感じている。教師が様々な障害を持った子供を早期に見つけ出すことができるように、教師に対するサポートや研修の充実を図るための予算の拡充が必要である。

○多人数学級であった時代から、子育ての状況が大きく変化していることを前提として捉え、子供一人一人に手がかかる現代の状況をよく理解したうえで、学級の人数についての議論が必要である。

⇒議員 ご意見として承る。

○学級の人数が少ないにもかかわらず、教師は、子供の面倒を見ておらず、無責任であると感じる。教師は、「勉強ができないのも個性である」という言葉を使って、成績のよくない子供を見捨てており、教師に対して不信感を持っている。民間の塾に多くの子供が通う現状について、教師は反省する必要があるし、しっかりとした基礎学力の向上に向けて、具体的なことを議会から担当部局に要求してほしい。

⇒議員 ご意見として承る。児童・生徒にとって有益な教育となるように、賛否両論ある本日のご意見を今後の参考としたい。

○社会に出ると、相対評価で判断され、重いプレッシャーもかかるため、メンタルが弱くでは、社会でやっていけない。しっかりとしたアイデンティティーを持つような教育を行ってほしい。

⇒議員 ご意見として承る。

○最近の教師は、夜遅くまで翌日の準備で残業するなど、大変苦勞していることを知っている。学校での教育のやり方については、学校の裁量に任せるべきである。

⇒議員 ご意見として承る。

○課題を持った子供に対するケアが必要な現代において、一人一人の子供を地域や学校でどのように育て上げていくのかが重要である。家庭で1対1で子供と向き合う保護者を周囲の人たちが見守り、支援して行ってほしい。

⇒議員 ご意見として承る。

○レトルト食品や惣菜弁当が身近になっており、手作りを食べるのが難しい時代となる中で、食育の観点からも、小学校と同様に、中学校での完全給食の実施を検討してほしい。

い。

⇒議員 ご意見として承る。

○大矢知地区の中学校新設についての現状はどうか。

⇒議員 朝明中学校の学校規模への影響も考慮して、個人としては、大矢知地区への中学校新設に反対し、その際に、現在の朝明中学校を移設してはどうかとの意見を行った。今後、どのような規模で中学校を新設すべきか、試行錯誤をしながら、生徒数の問題や地元からの理解を得るための課題をクリアする落としどころを行政として探っている段階であると理解している。

○最近、朝明中学校をそのまま移転してはどうかという意見を聞くが、そのようなことはせずに、大矢知地区での中学校新設を早期にお願いしたい。西朝明中学校など現在ある中学校を無くすという手段での進め方についても賛成できない。

⇒議員 ご意見として承る。

○八郷西小学校を廃校にするという意見を議会から上げないでほしい。

⇒議員 ご意見として承る。

○市内の小中学校の図書館に、図書「はだしのゲン」は、どの程度所蔵されているのか。

また、当委員会委員として、「はだしのゲン」の所蔵を認めるのか確認したい。

⇒議員 市内の小中学校での当該図書の所蔵について、現状を把握していない。

⇒議員 議会として、図書購入のための予算は審査するが、具体的にどの図書を購入するかまで議会が承認する立場にない。公費で購入する図書として、明らかに児童・生徒にとってふさわしくなければ、市長の予算執行に対し、議会から意見することはある。現在、当該図書購入の是非について、当委員会では議論していない。

⇒議員 原爆や戦争の悲惨さを後世に伝えていく意味においても、児童・生徒が自由に図書を読む環境と言論の自由を守っていくことは大事であると考えている。

⇒議員 当該図書について、史実でないことがあたかも史実であるかのように記述されており問題だという意見があるという認識は持っている。当該図書の内容についても諸説あるため、児童・生徒にとって有益な図書かどうか今後検証する必要があると

考える。

○教科書の展示について、本市では平日のみ午前9時から午後5時までの開催であるため、より多くの市民が見ることができるよう、土日や平日午後5時以降の展示など開催日時の検討を要望したい。

○教科書展示の会場について、現状の総合会館では、よほど関心のある人か教師しか訪れないため、図書館など多くの市民が訪れる場所での開催を検討してほしい。

○教科書の採択にあたって、協議を行う会議を公開してほしい。

○教師自身の考え方やイデオロギーを子供に押し付けることのないように、使用する副読本については、すべて総合会館6階の図書室に揃え、常に確認できる状態にする必要がある。

⇒議員 ご意見として承る。

○朝鮮初中級学校への補助金の支出について、昨年度、公益性があるとの判断で議会が支出を認めたと理解しているが、公益性の有無についての見解をあらためて確認したい。

⇒議員 平成27年度予算については、朝鮮初中級学校が示した3点の約束事が履行されたという点を踏まえ、公益性があると判断し、議会として予算を承認した。平成28年度予算審査の際には、その3点の約束事が継続して実施されているかどうかのポイントであり、あらためて議会内で議論されたいと考える。個人としては、公益性があるとは全く考えていない。

○議会として、公益性の有無を判断するために、朝鮮初中級学校の履行内容を十分に調査しているのか。金一族への個人崇拝や反日教育、思想教育が行われていないことが重要であると考えているが、使用する教科書を確認するだけでは十分な調査とはならない。

⇒議員 過去2年間、担当部局を通じて、教科書を取り寄せ、翻訳し、反日教育を行っていないことの教育内容を確認するなど検証を行っている。個人としては、その内容を見る限り、間違いなく反日教育であると考えている。

⇒議員 担当部局が実際の授業を見に行き、授業の内容を確認したという報告を受けている。

○朝鮮初中級学校への補助金の支出について、子供が「かわいそう」「生まれる場所は選べない」といった理由ではなく、明確に公益性があることの理由をホームページ等で公表するとともに、他に影響されず、本市議会の判断に基づいて、補助金の支出の妥当性を委員会で検証してほしい。朝鮮初中級学校への補助金の支出に係る今後の方向性について確認したい。

⇒議員 国際情勢等の様々な問題があることは理解するが、これらの問題だけに関わらない子供の立場や、子供が今後成長し、日本の社会に貢献していくことを考慮して、トータルとして将来のために補助金を支出する必要があると考える。

⇒議員 朝鮮初中級学校で行われる教育と拉致問題等の国際問題とは、次元の違う問題であり、また、当該学校に通う子供は、本市の市民であることから公益性はあると考える。補助金が教育に関する費用に使われていることの報告を受け、確認している。

⇒議員 国籍の違う子供たちが、応分の教育を受けながら、大人になって日本で働く卒業生にこれまでに関わってきた一個人として、彼らの姿を見て賛成した。今後については、議論を踏まえ、あらためて状況に応じて賛否の判断をしたい。